

特集

後期早産児を 産んだお母さんへの 適切な支援とは

後期早産児は、在胎 34 週以上 37 週未満で出生した赤ちゃんです。超低出生体重児 (出生体重が 1000g 未満) や極低出生体重児 (出生体重が 1500g 未満)、先天性疾患のある赤ちゃん比べると、後期早産児は相対的に重症度が低く、入院期間も短いという特徴がありますが、さまざまな合併症のリスクは正期産の児と比べ高く、NICU・GCU へ入院した場合はお母さんは複雑な思いを抱くことになります。また、母乳育児の確立に困難が生じるケースも少なくないため、心理面を含んださまざまな支援が必要です。

本特集では後期早産児の特徴・注意点と共に、後期早産児を産んだお母さんの心情や必要な支援などを取り上げ、母児に必要なサポートを模索したいと思います。